IHI AEROSPACE Co., Ltd.

Corporate Profile

各種アクセス







YouTube

LinkedIn

★ 安全に関するご注意

●正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず取扱 説明書をよくお読みください。

- ●このカタログの記載内容は2025年4月現在のものです。
- ●カタログに記載の仕様、寸法および外観は、改良のため予告 なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ●商品の色調は印刷の都合により、実際の色と異なってみえる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ●所在地は変更になる場合がありますのでご了承ください。
- ●IHIおよびIHIシンボルマークは、IHIの登録商標です。







このカタログは石灰石から生まれた新素材LIMEX でつくられています

2508-1500-JP

株式会社IHIエアロスペース

〒 370-2398 群馬県富岡市藤木 900 番地 TEL(0274)62-4123 FAX(0274)62-7711 URL: https://www.ihi.co.jp/ia/



IHI Realize your dreams

MISSION

新しい技術を宇宙と、空と、美しい地球へ

VISION

ともに、うみだそう 新たな、素材を 新たな、商品を そして、新たな、事業を

IA WAY

あの星へ。あの大空へ。
古代より人は天を見上げては憧れを抱き続けてきました。
安全で平和な、そして持続可能な社会へ。
無数の人々がそう願ってきました。
そのような想いを、願いを、現実へ、宇宙・防衛・航空分野で挑み続けてきたのが、
IHIエアロスペースです。

私たちは、宇宙と空を駆け巡りたい、美しい地球を守りたい、そういう集団です。 想いを、願いを、現実に変えていくために、これからも、 技術の最先端を歩むチームであり続けたいのです。

技術に完成はありません。進歩は一朝一夕には訪れません。 今のこの一歩、それがたとえどんなに小さな歩みであろうと、 その先に、新たな可能性、新たな未来が、拓かれていることを知っています。 誠実に、技術の本質を見据え、みんなで、粘り強く、今このときもその一歩を創りあげていきます。

代表よりメッセージ



"

持続可能な社会の実現を目指して

"

当社は1954年のペンシルロケット開発から始まり、我国随一のロケットシステム専業メーカとして固体ロケット技術と宇宙環境利用技術、さらにはそれらに必須となる複合材技術を高め、事業を拡大・発展させて参りました。現在はIHIグループの一員として、航空・宇宙・防衛事業の一翼を担っております。

当社の事業を取り巻く環境は、時々刻々と変化しています。宇宙分野においては、国主導の宇宙開発から民間主導による宇宙利用の時代へと大きく転換し、安全保障や地球環境の課題解決といった面で必須のものになりました。防衛分野においては、世界的な緊張の高まりや我が国周辺の安全保障環境の急激な変化を受け、防衛力の抜本的強化が求められるようになりました。航空分野においては、旅客需要は将来に渡って拡大傾向にある一方で、機体の軽量化による省エネ推進、環境負荷の低減にとどまらず、世界的なカーボンニュートラルの流れに沿って、燃料の脱炭素化、グリーンエネルギー化が求められています。

当社は、これまで培ってきた高度な技術とものづくり力を活かして、このような社会の 要求に応えつつ、何にも代えがたい美しい地球を守り、持続可能な社会の実現へ向け て取り組んでまいります。

代表取締役社長 並木 文春



|H|エアロスペースの事業構成

高度な技術力を土台として**3つの事業**を展開。 これらを軸とした事業展開により強靭な経営基盤を構築。



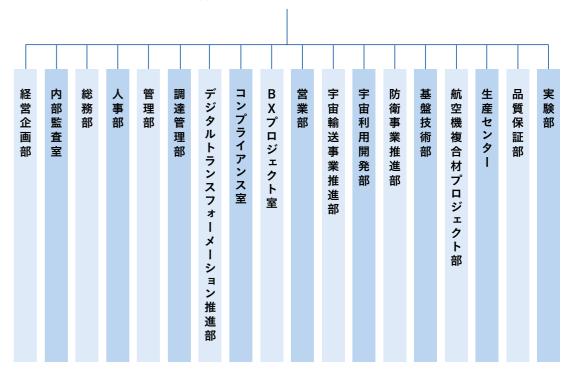
会社概要

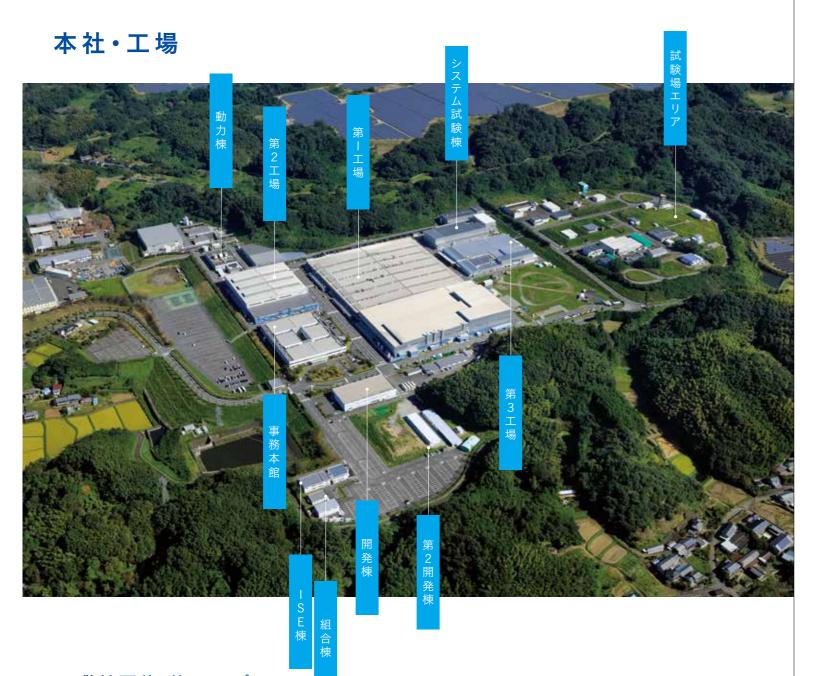
社名	株式会社IHIエアロスペース
英文名称	IHI AEROSPACE CO., LTD.
本社所在地	〒370-2398 群馬県富岡市藤木900番地
TEL	0274-62-4123
FAX	0274-62-7711
HP	https://www.ihi.co.jp/ia/
資本金	50億円(株式会社IHI·I00%出資)
事業内容	宇宙機器、防衛機器等の設計、製造、販売および航空機部品の製造、販売など
従業員数	約1,200名
関連会社	株式会社IHIエアロスペース・エンジニアリング

組織図

(2025年4月~)

株式会社【HITアロスペース





敷地面積:約49万㎡

工場沿革

1996 建設着工

1997 第2工場・事務本館・動力棟・燃焼試験棟ほか 竣工

1998 富岡事業所 竣工

2000 株式会社アイ・エイチ・アイ・エアロスペース 設立

2003 石川島播磨重工業株式会社宇宙開発事業部を一部統合

2007 システム試験棟 竣工、川越事業所の富岡移転完了

2008 株式会社 IHIエアロスペースに社名変更

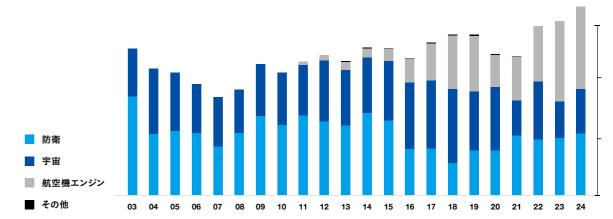
2014 第3工場 竣工

2024 本社所在地変更



SALES TRENDS

売上高の推移



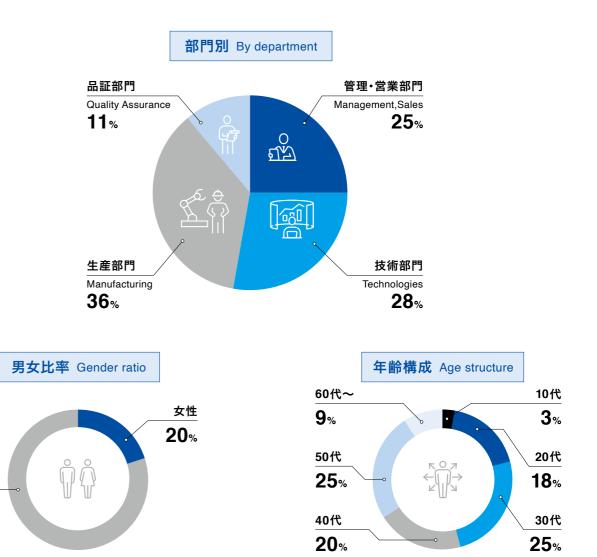
IPERSONNEL BREAKDOWN

人員構成

2025年4月1日現在

男性

80%



07

事業の歴史



沿革

休式会社「HT工アロスペース(以下、TA)は、口座自動車休式会社子田航空事業部の営業譲渡を受けて、2000年に発足しました。1953年、戦前の中島飛行機の流れを汲む富士精密工業株式会社がロケット飛翔体の研究に着手して以来、科学観測ロケットや実用衛星打上ロケットの開発に70年の長きにわたって携わる、我が国を代表するロケットの総合メーカーです。 2003年には、ターボポンプ関連を除く石川島播磨重工業株式会社の宇宙関連事業の多くをIAに移管・統合、今やIHIグ

また防衛分野においても、戦後我が国の防衛産業草創期から装備品開発に取り組み、ロケット弾システムや誘導弾推進装置の専門メーカーとして本の防衛に貢献しています。

さらに、ロケット開発で長年培った技術をジェットエンジン部品の製造に活用、航空機関連部品製造を3つ目の事業の柱として活動しています。

宇宙輸送事業

宇宙への自在なアクセスを提供

すべての宇宙活動は、宇宙へのア クセスを可能とする「宇宙輸送シス テム」が必須であり、活動を支える 基盤となっています。当社は、日本 が独自に開発した固体燃料ロケッ ト技術を主軸として、大中小の衛 星の輸送手段を提供しています。

イプシロンロケット

イプシロンは我が国基幹ロケットの一角 をなす固体ロケットです。当社は、ロケッ トシステムの開発と機体製造を担い、開 発中のイプシロンSを用いた打上げ輸送 サービス事業を展開する事業者に選定 されています。今後益々需要拡大が予想 される小型・超小型衛星の打上げ市場 に本格参入を目指します。







鹿児島県: JAXA内之浦宇宙空間観測所

HーIAロケット

H-∥Aは日本の基幹ロケットとして、2001年に初号機を打上げ、2023 年までに47機を打上げたベストセラーです。この間、各種の人工衛星打 上げを通じて社会の発展に貢献してきました。

当社は、固体ロケットブースタ(SRB-A)、第2段ガスジェット装置、火工 品等の開発、製造を担当しています。



H3ロケット

H3ロケットはH-IIAロケットの後継機となる次期基幹ロケットです。打上 げ費用を大幅に低減するとともに、使いやすさを向上させ、今後の日本 の宇宙輸送を担うロケットとして、国際衛星打上げ市場への本格参入 を目指しています。当社は、H-IIAと同様に固体ロケットブースタ(SRB-3)、第2段ガスジェット装置、火工品等の開発、製造を担当しています。



観測ロケット

観測ロケットにはS-310、S-520、SS-520があり、それぞれ最大高度は | 190km、350km、1000kmまで到達できます。これらの観測ロケットは JAXA宇宙科学研究所が実施する超高層大気観測や高高度における 各種実験、北極圏における磁気圏観測などに用いられています。SS-520-5号機は世界最小の衛星打上げロケットとしてギネス世界記録に 認定されています。



民間打上げサービス事業への参画

当社が資本参加するスペースワン株式会社は、「世界最短」「世界最高 頻度」での打上げ輸送サービスの提供を目指して、カイロスロケットの 開発と打上げの事業化を進めています。当社は、カイロスロケットの推 進系コンポーネントを提供しています。



将来輸送系

当社は世界に先駆けロケット用メタン推進系の研究・開発を進めてお り、100kN級と30kN級のエンジンをIHIで開発しています。将来輸送系と して重要な技術であり、小型ロケットの上段ステージへの適用を目指し ています。





宇宙インフラ事業

宇宙を活動の場に

宇宙環境を利用した実験や観測において、お客さまのご要望をとりまとめてミッションを可能にす るためのシステムインテグレーション技術と、宇宙の特殊環境下で動作を可能とする機構部品の 技術などを活かし、多くの宇宙機システムや関連装置を提供しています。また、人工衛星の軌道 変更や姿勢制御用の推進システムおよびその関連装置についても豊富な経験を有し、多くの衛 星や宇宙機に採用されています。

国際宇宙ステーション(ISS)

ISSは国際協力で作られた有人宇宙施設で、生命科 学・材料・医薬品開発につながる実験、科学観測、宇宙 観測、通信実験などを行っています。当社は、日本が開 発した「きぼう」日本実験棟において、船外実験プラット フォームの開発、製造を担当したほか、船内実験室の熱 制御系・実験支援系、およびそれらに搭載される実験 ラックや実験装置を開発、提供しています。



小型曝露実験プラットフォーム(i-SEEP)

i-SEEPは宇宙機の与 圧環境で打上げた実験装 置を「きぼう」の船外実験 プラットフォームで実験す るためのアダプタとなる装 置です。これにより多くの ユーザが比較的容易に実 験装置を用意することが できるようになりました。



「きぼう」に設置されたi-SEEP

静電浮遊炉(ELF)

ELFは、静電気力で帯電 冷却・凝固を行う実験装 置です。容器不要なので、 高融点試料や反応性の 高い試料の加熱試験が 可能です。



FIFのサンプル交換を行う様子

小型衛星放出機構(J-SSOD)

J-SSODは、ロボット アームを用いて超小型衛 星を「きぼう」から軌道投 入するための装置です。 2012年に初めて放出を行 い、2025年4月末までに計 91機の衛星放出に成功し ています。



衛星放出の様子

ドッキング機構

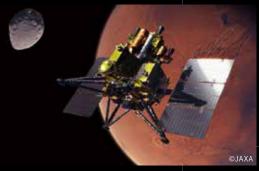
宇宙空間で2つの宇宙機 を自動で結合させること ができる機構です。HTV-X に搭載し、日本として初の ISSでの実証を目指し開 発を行っています。また、 将来の民間商業ステー ション等をターゲットに 海外へのビジネス展開を 行っています。



ISSに向かうHTV-Xの想像図

衛星推進系

当社の衛星推進系は、ロケットや衛星の姿勢制御装置、静止衛星 を軌道に投入するためのアポジエンジン、月や火星軌道に投入す るための推進システム、ISSに物資を運ぶためのHTV-X用推進モ ジュールなど、数多くの衛星や宇宙機に採用されています。これらの システムに使用する一液スラスタ、二液スラスタ、タンク、バルブ、電気 推進(ホールスラスタ)などの開発、製造を行っており、それらは海外 への輸出も行っています。



MMX探査機









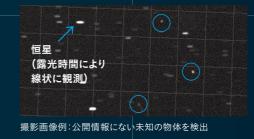
統合宇宙防衛事業 宇宙空間の持続可能な利用に向けて

宇宙空間には、測位や通信、地球観測などの各種衛星が打 上げられており、なくてはならない重要な社会インフラとなっ ています。一方、宇宙ゴミ(スペースデブリ)は増え続け、現在 約2万個が存在するといわれています。当社は、宇宙空間の安 定的利用のために、宇宙状況を監視する取り組み(SSA)を 行っています。また、人工衛星から地上を観測したデータを利 用し、安全保障や社会課題解決に貢献するための研究開発 を行っています。



SSAの取組み

当社は、西日本と東日本の2か所にSSAの観測所を有しています。観測範囲はインド洋から太 平洋上空までの約120度で、静止軌道帯の宇宙物体の位置や軌道解析を行い、接近情報など の提供も行っています。今後SSA技術をさらに向上させ、宇宙の安全を見守るサービスの実現 を目指しています。





南牧観測所



口径200mm 視野角2.6度 冷却CCDカメラ 静止軌道帯の経度120度幅を観測

防衛事業

安全保障の一翼を担う

平和で安全な、そして持続可能な社会を目指して、当社は防衛事業を通じて日本の安全保障に貢献しています。我が国を取り巻く周辺環境が益々厳しくなる中、ロケット弾システム、各種誘導弾用推進装置などの分野で安全保障の一翼を担ってまいります。

ロケット弾システム

当社は戦後我が国防衛産業草創期からロケット弾の開発、生産に取り組み、独自国産とライセンス国産の各種ロケット弾システムを防衛省に納入してまいりました。安全保障の根幹として益々重要性が認識される継戦能力の維持向上に、今後も貢献してまいります。

障害処理器材

当社はロケットを用いた障害処理に長年の経験と実績を有しています。対戦車地雷を迅速に処理する92式地雷原処理車(MBRS)をはじめ、人員用の70式地雷原爆破装置と携帯障害処理器材を開発・生産しています。また、新たなニーズに対応して水際障害処理装置を開発し、装備化へつなげました。





携帯障害処理器材

92式地雷原処理車(MBRS)

各種ロケット弾薬

陸上自衛隊向けに、地対地、空対地、対戦車などの各種ロケット弾を製造・納入しています。また海上自衛隊向けに、チャフロケット弾、IRデコイ弾などの艦艇防御システムを開発・納入しており、さらに新たな技術を活用してRFデコイ弾の開発も行っています。



RFデコイ弾



70mm空対地ロケット弾

誘導弾用推進装置

当社は我が国随一の誘導弾用固体ロケットモータの製造メーカです。陸・海・空各自衛隊が装備する地対地、地対空、空対地(艦)、空対空などの各種誘導弾(ミサイル)用として、多くのロケットモータを供給しています。 我が国防衛のため誘導弾のニーズが益々高まる中、これに積極的に対応してまいります。

11式短距離地対空誘導弾/基地防空用地対空誘導弾

81式短距離地対空誘導弾(通称"短SAM")の後継となる地対空 誘導弾システムです。当社は"短SAM"の時代から一貫して推進 装置の開発・製造を担当しています。



弾道ミサイル防衛用 能力向上型迎撃ミサイル:

SM-3ブロックIIA

SM-3ブロック II Aは日米共同開発の弾道弾迎撃ミサイルで、海上のイージス艦から発射され、敵のミサイルをミッドコースで迎撃する、3段式の誘導弾です。当社は第2段・3段推進装置の開発・製造を担当しています。



ペトリオットPAC-3MSE

ペトリオットPAC-3は、飛来する中・短距離弾道ミサイルを大気圏内の最終段階において迎撃するミサイルです。MSEはその迎撃能力をさらに向上させたもので、PAC-3に引き続き当社がロケットモータのライセンス生産を担当しています。



※写真は従来型PAC-3

航空機複合材事業

ロケット技術をもとにCO2削減に貢献

当社は、IHIで培ってきた航空機エンジン技術と、ロケットで長年取り組んでき た軽量化のための複合材技術を組合わせ、航空機の燃費向上や脱炭素化に貢 献できる航空機エンジン部品の複合材化に取り組んでいます。Airbus A320neo やAirbus A220シリーズに搭載されるPWII00G-JM、PWI500Gシリーズエンジ ン向けに、ファンケース、ファンブレード、ガイドベーン等部品の量産供給体制を 構築しています。



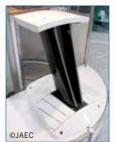
AIRCRAFT ENGINE

ジェットエンジン部品製造

現在当社は、エアバス社のA320neoに搭載される PWII00G-JMエンジンならびに同A220に搭載される PWI500Gエンジン用の複合材製ファンケースの唯一の 製造メーカーとして量産体制を構築し、旅客機の軽量化 と燃費向上に貢献しています。また、複合材部品以外に も、当社が得意とする接着/塗装技術を主軸とし、同エン ジンに搭載されるファンブレードの製造も行っています。



ファンケース



ガイドベーン

ファンブレード





IAC LAB

IACラボ紹介

当社では、お客さまと一緒に新事業創出活 動が可能な場として、IACラボを開設しまし た。IACラボでは、熱可塑性複合材のプリプ レグ製造、成型、接着工程の一気通貫型の 試作が可能であり、実際に設備を使用した ディスカッションを通してお客さまの課題解 決や販路創出を目指しています。

RECYCLING

リサイクルへの取組み

循環型経済(サーキュラーエコノミー)実現 への取り組みとして、当社では複合材部品の リサイクルに関する研究開発も進めていま す。熱可塑性複合材の裁断時に出る端材の リサイクルとして、別の製法によって強度の 求められない航空機の構造体以外の部位 等への採用を目指しています。





リサイクル品

エンドライフ製品

破砕加工

スキン・フレーム接着構造 DECARBONIZATION

脱炭素航空機実現に 向けた研究開発

航空機脱炭素化に向けて検討されてい る次世代航空機である電動航空機や水 素航空機のような新たな航空機の実現 に向け、当社ではさらなる航空機の軽量 化に貢献すべく航空機における複合材 製部品の適用拡大に向けて研究開発を 進めています。



スキン・ストリンガー 一体構造

基盤技術

事業を支え、新たな価値を創造

航空・宇宙・防衛関連技術の研究開発で各事業の基盤を支えるとともに、それぞれの枠を飛び越え、 未来に向けた新たな価値創造にも取り組んでいます。



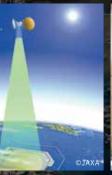


固体ロケット地上燃焼試験



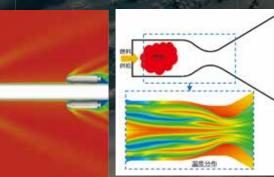
C/C複合材料

はやぶさ2再突入カプセル



SSPS概念図





ロケットの流体解析例

液体スラスタの燃焼解析例

推進系技術

高性能と高信頼性の両立を目指し、固体推進・液体推 進・電気推進といった幅広いロケット推進系の研究開 発に継続的に取り組んでいます。また将来に向けた新た な推進系技術を獲得すべく、空気吸込式エンジン、核 融合ロケットなどの新技術開発にも積極的に取り組ん でいます。

耐熱材料技術

ロケットの噴射口や再突入体のヒートシールドに用いら れる耐熱材料は、当社固有の技術分野のひとつです。固 体ロケットのノズルスロートに用いられるC/C複合材料 (Carbon/Carbon Composite)は炭素繊維を強化材と し炭素をマトリクス材としたもので、当社独自の設計・ 製法により作られています。また、「はやぶさ2」などの力 プセルに用いられるアブレーション型ヒートシールドも 当社が開発・製造しています。

マイクロ波電力伝送技術

宇宙太陽光発電システム(SSPS: Space Solar Power System)の実現に向け、キー技術であるマイク 口波電力伝送技術の開発に取り組んでいます。SSPSで は衛星軌道上から電力を送電するため、高出力化・高 効率化・軽量化といった技術課題があり、それらに対し て着実に研究を進めています。

シミュレーション技術

ロケットや宇宙機の開発期間短縮と信頼性向上に向 け、シミュレーション技術の研究開発に取り組んでいま す。ロケットの燃焼状態や飛翔状態、宇宙空間におけ る機器の動作といった極限環境における事象をシミュ レーション上で再現することで、試験前の成立性確認 や実際に計測できない現象の理解を深め、さらなる技 術向上を図っています。

生産技術

一貫した生産体制を構築するトータルエンジニアリング

多種多様な材料を製品に適用し、また大型部品として製造できることを強みとしています。 さらに多様化したニーズに応えられるよう、量産自動化や環境に配慮した生産技術開発にも取り組んでいます。







大型ターニング装置



リン酸アノダイズ自動処理装置

複合材料製造技術

独自材料の開発が可能な複合材料技術を有しており、製品要求に応じた材料設計や 製品の製造に適した材料形態での製造が可能です。

●材料形態

ロービングプリプレグ、クロスプリプレグ

複合材料成形技術

機能・性能に合わせて多様な成形方法によりFRPやFRTP部品を製造する技術を有し ています。また、ロケット・航空機に代表される大型高品質部品の製造も可能です。

● 成形技術

FW、ハンドレイアップ、チョップモールド、

●成形設備

オートクレーブ、ハイドロクレーブ、 射出成形、テープワインディング、RTM、C/C 射出成形機、FW装置、自動積層装置、

機械加工

大型薄肉部品でも変形や振動を防止した高精度加工、CFRP・C/C・ハニカム構造等の 非金属や金属との接合品の損傷を防止した高品質な加工が可能です。

主要加工機

大型マシニング、複合材ターニングセンター、大型旋盤装置

表面処理技術

塗装を含めた多様な表面処理技術を非鉄金属に応用することで耐腐食性、接着性や 耐侵食性を向上させる技術を有しています。さらに、完全自動のシステムや製造記録に よるトレーサビリティなどで効率化に貢献しています。

●表面処理

アロジンコーティング、 リン酸アノダイズ

プライマースプレー塗装、 ウレタン塗装

接着技術

異種材料の接着技術を保有しており、表面処理から接着まで一貫した製造が可能です。

●適用材料

金属、非金属、FRP

未来へ向けた技術研究

当社はカーボンニュートラルを目指した生産技術開発にも取 り組んでいます。塗料の消費量削減、空調設備の省力化およ び副資材削減を図ることで環境に配慮したモノづくりを実現 させるため、ダイレクト塗装技術の確立を目指し研究中です。 量産設備の構築にインテグレータとして取り組んでいます。



塗布パターン

に取付け、ロボットにて複雑 形状を自動で塗布する装置 です。塗着効率が高く、副資 材削減が実現可能です。

品質保証技術

最新技術を駆使した製品の品質評価

航空・宇宙・防衛製品の信頼性を確保するため、最新の非破壊検査手法や センシング技術を採り入れた計測技術を開発し、製品の品質を評価しています。 また、人工知能(AI)などのデジタル技術を駆使した作業の安定化や効率化にも取り組んでいます。

非破壊技術

X線や超音波など、様々な手法を駆使した検査技術開発に取り組んでいます。

- ●大型透過検査装置:高エネルギ線源とデジタル検出器を用いて、 大型ロケットのモーターケースなどを全自動で探傷可能な装置を開発しました。
- ●非接触超音波探傷検査装置:探傷プローブを製品に接触させることなく、より効率的で安定した検査を可能にしています。





計測技術

小型から大型製品まで、様々なニーズに合わせた計測技術の開発を行っています。

- ●テラヘルツ波膜厚計測システム:特殊な性質をもつ周波数帯の電磁波(テラヘルツ波)を用いて、
 - 非接触で自動計測ができるシステムを開発しました。
- ●レーザートラッカー計測装置:製品サイズや構造に合わせ、最新の3Dスキャナ技術を用いて高精度で 効率的な計測システムの開発に取り組んでいます。





テラヘルツ波膜厚計測システム

品質マネジメントシステム

航空・宇宙・防衛製品に求められる高い品質水準を達成するため、公的規格に基づく品質マネジメントシステムを構築し、 すべての生産活動に適用して日々の技術力向上とさらなるレベルアップを図っています。 また、特定の製品群においては個別のセクター規格にも対応しています。

実験技術

製品開発を支えるプロフェッショナル集団

製品開発過程における設計検証、ならびに製造過程における製品保証のために、 固有の実験技術を基盤として各種試験を実施しています。



固体推進系燃焼試験技術

固体ロケットの構成要素であるモーターケース、推進薬、断熱 材、ノズル等の試験から、それらを組み合わせた実機大口ケット モータの地上燃焼試験まで、幅広い試験技術を有しています。 燃焼試験は推力200kNレベルまでは社内で、それ以上のものは 社外の燃焼試験場で実施しています。



液体推進系燃焼試験技術

推力100kNレベルまでの液化メタンと液体酸素を用いるロケット エンジンの燃焼試験が可能です。また、ヒドラジンを燃料とする衛 星用スラスタの真空中燃焼試験、ターボポンプの駆動試験なども 行います。高圧ガス設備や計測・制御・防消火等の付帯設備を自 在に使いこなして、超高圧、極低温の液体水素なども安全に扱う は験技術を有しています。



システム試験技術

複数の機器を組み合わせたシステムとしての機能確認試験を行 います。機器間のインターフェース確認から始め、最終的にはすべ ての機器を動作させてひとつの製品として機能することを確認し ます。宇宙ロケットの場合、確認項目は数千にも及びます。



イプシロンロケット打上げ

打上げオペレーション

射場でのロケット打上げに係わるオペレーションも重要な技術 のひとつです。シーケンスの策定から実行まで、綿密に計画され たすべての作業を予定とおり遂行することで確実な打上げを行 います。

サステナビリティ

私たちIHIグループは、「技術をもって社会の発展に貢献する」、「人材こそが最大 かつ唯一の財産である」との経営理念のもとに、地球的課題を意識し、お客さまや 取引先、株主のみなさまはもちろん、ともに働く人びと、そして地域社会や国際社会 の期待に応えるために私たちがなすべきことを自ら実践し、それぞれからの信頼を 得ることによって将来にわたって企業としての存在価値を高めることに努めます。 (IHIグループ基本行動指針より)

SDGsへの取組み

当社は、先進技術により、航空輸送、防衛システムおよび宇宙 利用の未来を切り拓き、豊かで安全な社会の実現に貢献して まいります。



マネジメントシステムの構築

当社は、以下の国際的マネジメントシステムの認証を取得し、 グローバルスタンダードな基準に基づく企業活動を行っています。

- 品質マネジメントシステム: JIS Q 9100 & JIS Q 9001 (ISO 9001)
- 環境マネジメントシステム: JIS Q 14001 (ISO 14001)
- 情報セキュリティマネジメントシステム: JIS Q 27001 (ISO/IEC27001)
- 労働安全衛生マネジメントシステム: ISO 45001

社会貢献活動

当社は、社会の期待に応えることを企業の社会的責任ととら え、CSR活動にも積極的に取り組んでいます。地域のみなさま との一体感醸成を目的に本社・工場で毎年開催している「富 岡口ケット祭り」は、たいへん好評をいただいています。また、地 元のお祭りへの参加や、社員による学校での講演実施など、各 種活動を行っています。





事業所公開「富岡ロケット祭り」

「富岡どんとまつり」への参加





車いすバスケットボールイベント

地元中学校での社員講演

外部評価など

当社の各種取組みに対して、次の認定などをいただいています。



● 健康経営優良法人

経済産業省が日本健康会議と 共同で開始したもので、社員の 健康管理を経営的な視点で考 え、健康の保持・増進につなが る取組みを戦略的に実践する 法人を顕彰する制度です。



● えるぼし(3段階目)

「女性活躍推進法」に基づ き、一定基準を満たし、女 性の活躍促進に関する状 況などが優良な企業を認 定する制度です。



くるみん

「次世代育成支援対策推進 法」に基づき、行動計画を策 定した企業のうち、目標を達 成し、一定の要件を満たした 企業を「子育てサポート企 業」として認定する制度です。



● パートナーシップ構築宣言

事業者が、サプライチェー ン全体の付加価値向上と、 パートナー企業の皆様との 共存共栄を目指して、代表者 名でその取組みについて宣 言を行うものです。

アクセス



武豊事務所

〒470-2379

愛知県知多郡武豊町字北小松谷|番地 TEL:050-5541-1627 FAX:0569-73-2359



本社

〒370-2398

群馬県富岡市藤木900番地





〒135-0061

東京都江東区豊洲三丁目I番I号豊洲IHIビル TEL:03-6204-8000 FAX:03-6204-8810



横浜事務所

〒235-8501

神奈川県横浜市磯子区新中原町 |

IHI横浜事業所

横浜エンジニアリングセンター2号館 TEL:090-3192-4683

種子島事務所

兵庫県相生市相生5292番地 TEL:050-5541-1631

〒891-3703

相生試験場

-678-0041

鹿児島県熊毛群南種子町茎永 宇宙航空研究開発機構種子島宇宙センター RM棟2F 株式会社IHIエアロスペース種子島事務所

TEL:0997-26-0467 FAX:0997-26-0823